

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

主体的に学び、高め合う児童の育成
～「わかる」「できる」が実感できる授業をめざして～



2 研究計画

(1) 主題設定の理由

現行の学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、児童に生きる力を育むことが求められている。本校の児童は、各種教育調査の結果から、自己肯定感がやや低く、自信を持って学習に取り組むことに課題があることが分かった。そこで、本校の特色である ICT 機器の活用やこれまでの学校課題研究の成果を生かし、「わかる楽しさ」、「できる喜び」を実感できるよう授業改善を図っていくこととし、算数科を中心に、授業改善や指導法の研究に取り組むことにした。

(2) めざす児童の姿

- ①課題を自分のものとしてとらえ、解決に向けて取り組み、深く学ぶことを楽しむ子ども
- ②互いのよさを認め合い、高め合う子ども
- ③授業で「わかった」「できた」と実感できる子ども



3 研究内容

(1) 研究の方針、内容および具体策

「わかる楽しさ」「できる喜び」を実感できる授業の工夫

方針	内容	具体策
(1) 学習意欲を高め主体的に学びに向かうことができる授業の工夫	①自ら目的意識や課題意識(疑問・問い)をもつことができる導入の工夫	ア 自作教材、具体物の活用の工夫など イ ICT機器を活用した導入の工夫(PC、タブレット端末等) ウ 児童の情意に働きかける課題の提示の工夫(意外性、疑問、好奇心など)と発問の工夫
	②「振り返り」活動の確実な実施と内容の充実	ア 「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業展開への位置付けと提示方法の工夫と確実な実践 イ 授業計画シートや板書計画ノートの作成
(2) 学習集団において、互いの有効な関わり合いを生み出す工夫	①安心して学び合える集団づくり	ア Q-Uの実施・結果分析による学習集団づくり イ 互いのよさを生かし、互いを認め合う学級経営
	②個のよさを生かす学習形態や学習活動	ア 学習形態の工夫による学び合いと時間の確保 イ タブレット端末による個人の考えの表現
(3) 達成感や喜びのある授業の工夫	①達成感や成就感を得られる教材やICT機器の活用	ア 教材の収集、開発、作成、管理、活用など イ ICT機器活用などによる個人の考えの表現の工夫 ウ 課題解決のために活用するICT機器の使い方スキルアップの支援
	②学年相応の家庭学習の充実	ア 家庭学習の実態調査と分析 イ 家庭学習のガイドラインやモデルの提示(「家庭学習のすすめ」)および家庭への啓発と協力依頼 ウ 授業との関連を図った家庭学習の工夫および自律的・計画的な学習方法の支援

(2) 研究授業を通じた主題への取組

① 2年生算数(S & U コラボ事業 指導者：宇都宮大学教育学研究科教授)

- 単元名 「3けたの数」
- 研究主題に迫るために

自分の考えを発表することに苦手意識をもつ児童が多くいるため、授業の中で自分の考えを何らかの方法で表現できたことの喜びを味わわせたいと考えた。そのために、既習事項を活用し、ワークシートに表現できるよう、一緒に数えたり、確かめたりするなどの工夫に取り組んだ。また、ペアで話し合う活動を取り入れたり、「おたすけカード」を活用したりしながら、自力解決が困難な児童の指導にあたった。

○ 研究協議

- ・ 既習事項を活用し、児童自身が考える「数学的な活動」を通して、知識・技能の習得が行われていた。
- ・ ペア活動において、何を話せばよいのか困っている児童が見られ、「話合いの視点」があると、より学びが深まるのではないかと。

② 4年生算数（指導者：下野市教育委員会指導主事）

○ 単元名 「わり算の筆算（2）」

○ 研究主題に迫るために

児童が自分の考えを書いたり説明したりすることに、少しでも喜びを味わい、説明する力を伸ばせるようにした。そこで、既習事項を手がかりに、児童が除数を何十と見ることや、仮商を立て、それを修正することに繰り返し取り組むことで、その意味を考え、それが計算の手順につながることによって「わかる」「できる」が実感できるようにした。さらに、数学的用語を用いながら解決の方法を適切に説明できるようにすることで、児童自身の中で明確になるとともに、相手によりよく伝わると考えた。また、少人数だからこそ、考え方を寄せ合い表現し合うことで、安心感をもちながら全員が主体的に学び、高め合えるようにした。

○ 研究協議

- ・ タブレット端末を活用し、説明する力の育成を図っていた。瞬時に考えが手元に届くエアドロップを活用することで、伝えるだけでなく、自分の考えとの比較をすることもできて有効な方法であった。
- ・ 見通しをもつ場面において、既習事項を基に粘り強く考えるなど、主体的な姿が多く見られた。また、問題を解いている途中でも、これがわからないな、これがわかりたいなと思うことも主体的な学びにつながることを共有できた。

③ 6年生算数（S & U コラボ事業 指導者：宇都宮大学教育学研究科教授）

○ 単元名 「並べ方と組み合わせ方」

○ 研究主題に迫るために

自力解決が困難な児童には、個別に支援したり、グループ学習を通して友達の多様な考え方や表し方に触れさせたりした。児童と共に問題点を一つ一つ解決していく授業を展開することで、研究主題である「わかる」「できる」が実感できるような指導にあたった。

○ 研究協議

- ・ 班ごとに差はあったが、「自分自身との対話」、「友達との対話」、「全体との対話」を通して学びを深めていた。
- ・ 児童のつづやきを拾って、つなげていく工夫ができるとよかった。

(3) 学力向上推進リーダーとの連携

① 昨年度に引き続き、教師の授業力向上のために、学力向上推進リーダーより提案された授業計画シートを作成し、それに基づき授業実践を行った。「学習指導要領との関連」や「児童に働かせたい見方・考え方」などを明記することで、児童に身に付けさせたい力を意識しながら授業に取り組むことができた。

② 授業後の学力向上推進リーダーとの話し合いでは、実践事例や参考資料等を紹介していただいたり、授業中の児童の様子の見取りから、次時の指導のポイントを教えていただいたりした。また、授業改善に向けた効果的な指導法について研修することができた。

③ 研究授業に向けての指導案検討の際にも学力向上推進リーダーより助言をいただき、指導のポイントを明確にして授業づくりに取り組むことができた。また、研究授業後の協議のもち方についても助言をいただき、「主体的」「対話的」「深い学び」に焦点を当てた充実した話し合いができた。

学習指導要領との関連

児童に働かせたい数学的な見方・考え方

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 授業中の「めあて」や「振り返り」の確実な実施が定着したことで、家庭学習にも波及し、自主学習の際にも「めあて」や「振り返り」の記入が見られるようになり、これまで以上に主体的に学びに向かう姿が見られるようになった。
- ② 学力向上推進リーダーと連携し、授業計画シートを活用したことで、その時間のねらい達成のための道筋を考えやすくなり、「わかる」「できる」が実感できるような授業改善に繋がった。

(2) 課題

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現のために、基礎的・基本的な内容の確実な定着は必須である。そのためには、授業力向上・朝の学習の活用・家庭での学習啓発等の工夫・改善に取り組みたい。
- ② 各学年に応じた ICT 機器（特にタブレット端末）の使い方、スキルアップの支援や、情報リテラシーに関する研究に取り組み、より多様な学習形態や学習活動を取り入れ、個別最適な学びを推進していきたい。